

# F P まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

## ご挨拶

小学生のお子様がいるご家庭では、自由研究などの夏休みの宿題をどうするか悩んでいるかもしれませんね。

新型コロナで活動に制約がある一方で、オンラインによる工場見学、社会科見学なども盛んにおこなわれています。

工場見学などは人数や時間・場所の制約があり思うようにできなかったかもしれませんが、オンラインならそのような制約なく見学ができます。

「オンライン社会科見学」「オンライン工場見学」などで検索するとたくさん見つかります（大人用もありますよ）。上手に活用して有意義な夏休みにしてください。



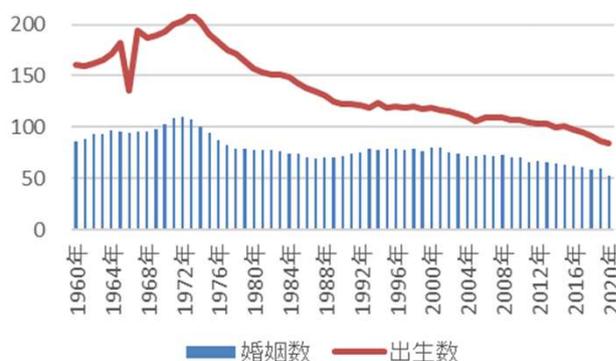
## 今月号のちょっと気になるお金のコラム

夏のボーナスをどのように使うか検討している人も多いのではないのでしょうか？  
使い道1位は7年連続で・・・

## コロナで出生数減少

新型コロナウイルスによって多くのことが変わりました。

そのなかでも特に気になるのは将来への不安からの婚姻・出産控えです。下図は1960年以降の出生数と婚姻数の推移です（令和2年人口動態統計月報年計より）。



1972年には約110万組だった婚姻数は2021年には52万組と半減、出生数もピーク時には200万人を超えていましたが昨年は約84万人と過去最少となりました。

2020年の妊娠届出数も87万件と前年比4.8%減、特にコロナが蔓延した春以降の減少が目立つことから2021年の出生数は80万人を割れるのでは、という専門家も出てきました。

産み、育てやすい環境の整備を期待すると同時に将来の年金や医療などへの備えはきちんとしておく必要があるのではないのでしょうか。



F P 松本相談センター  
ファイナンシャルアドバイザー  
媚山裕之

〒390-1702  
長野県松本市梓川梓856-26  
0263-76-1250  
090-8741-7358  
[info@fp-matsumoto.com](mailto:info@fp-matsumoto.com)  
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

## 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2021年4月末	500,000	616,469	582,580	549,836
2021年5月末	510,000	632,720	596,886	562,176
2021年6月末	520,000	647,618	610,531	575,221

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均	NYダウ	ドル円
5月末	28860.08	34529.45	109.56
6月末	28791.53	34633.53	111.53
	-0.24%	0.30%	

### 6月の株式市場は堅調でした

6月のNY市場は、金利上昇を示唆する内容のFRBの動向を受け下落しました。それを受け6月21日の日経平均株価は953円安になりました。

ニュースには以下のような見出しが並びました。

- 株価一時1100円超値下がり 終値900円超下落 4か月ぶりの下落幅
- 日経平均が1000円超安、FRBの姿勢変化でリスクポジション巻き戻し
- 日本株安、アジアで突出 一時1000円超安に3つの理由

その後FRBが現在の低金利政策を継続することが伝わると月末にかけ日米とも回復しました。

今後もワクチン期待が失望に変わったり、各国の巨額の財政出動の効果が期待を裏切ったりすると大きく値下がりする場面もあるかもしれません。

しかしながら企業活動、経済活動は株価の上下に関わりなく継続します。

長期の積立投資では企業が生み出す利益を獲得することが目的です。日々値動きを解説するもっともらしいニュースが流れてきますが惑わされずに継続することが大切です。

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

### 投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

### 大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

## 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

私たちの老後の支えの土台となるのは厚生年金や国民年金です。

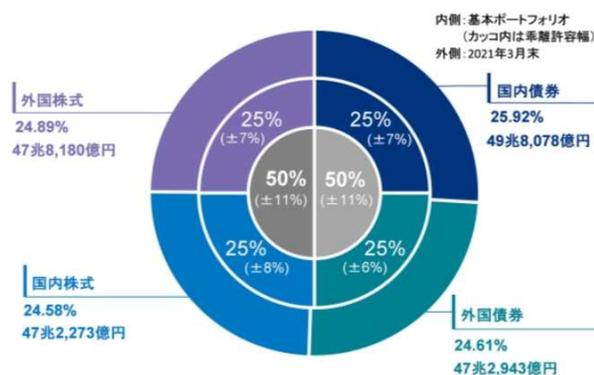
今月はその年金を運用している年金積立金管理運用独立行政法人（以下GPIF）が7月2日に発表した2020年度の運用状況を確認をしておきましょう。

### 2020年度 運用成績はプラス25.15%

	2019年度	2020年度
収益率	-5.20%	25.15%
収益額（億円）	-8兆2831億円	37兆7986億円
運用総額（億円）	150兆6332億円	186兆1624億円

2020年2月後半から3月末にかけての新型コロナによる暴落により2019年度の収益率は-5.2%でしたが、その後の株式市場の上昇により2020年度は25.15%と大きく回復しました。

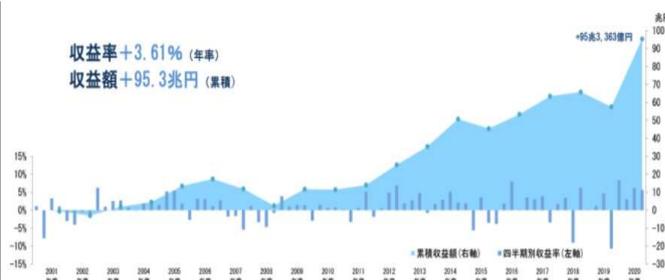
GPIFは資産全体を株式と債券に分散投資をしています。現在の配分は以下のようになります。



運用資産全体の値動きの幅、長期的に期待できる収益などを勘案してこのような配分にしています。

右上図は2001年以降の累積収益の推移を表しています。

青の棒グラフは四半期毎の収益率です。四半期で見るとプラスの時、マイナスの時があり殖えたり減ったりしていますが時間の経過とともに収益が積みあがっていくことがわかります。



短期的な値動きに惑わされずに企業の成長の果実が得られるのを待つ、長期積立投資と同じスタイルです。

運用資金は国民の財産なので四半期ごとに運用成果を公表しています。マイナスの四半期報告の時には不安を煽るような見出しが並びます。

2018年12月期に大きく下落しています。この時のニュースには以下のような見出しが並びました。

- GPIF、過去最大のマイナス運用14.8兆円 株安響く＝18年10～12月期実績
- 日本の年金運用で14兆円の巨大赤字
- 年金「14兆8038億円」を損失し、知らぬふりする政府の魂胆
- 公的年金15兆円の損失で、そろそろ考えるべき「逃げるタイミング」

有名なメディアや著名な経済評論家の記事の見出しです。このような記事や解説を大事な老後の資産形成の羅針盤にはいけない、ということがよくわかりますね。

国際決済銀行（BIS）が先月公表した年次経済報告書では世界経済について3つのシナリオを示しました。

- ① パンデミックが次第に落ち着いて消費拡大が継続、物価上昇も限定的
- ② 物価上昇が予想以上に進み予想を超える金融引締めになる
- ③ パンデミックが制御できず景気回復がとん挫する

②③の場合にはショック安になるかもしれませんが、値動きを解説するニュースに惑わされず継続することが長期積立投資では大切になります。

## ちょっと気になるお金のコラム

夏のボーナスの時期ですね。今月はボーナスの金額や使い道についての話題です。

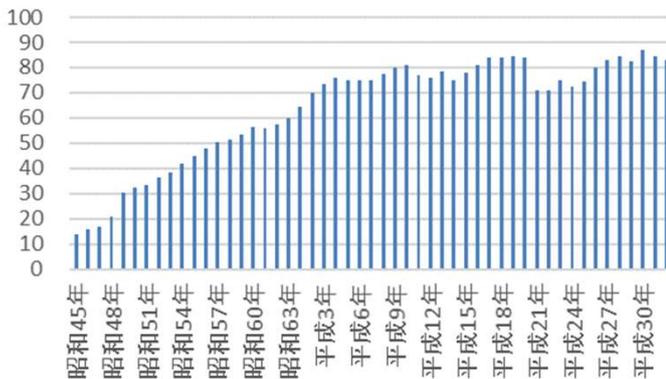
### 平均ボーナス支給額は？

「毎月勤労統計調査 令和2年夏季賞与の結果」（厚生労働省）によると民間企業の平均は383,431円でした。

	令和2年	令和元年
全 体	383,431	381,343
500人以上	633,853	652,608
100～499人	418,274	431,227
30～99人	335,961	331,267
5～29人	274,523	261,268

下表は、厚生労働省が妥結額などを把握できた、資本金10億円以上かつ従業員1,000人以上の労働組合のある企業390社の夏季一時金の推移です。

(万円)



昭和の時代は順調にボーナスが伸びていましたが平成以降は横ばいが続いています。このグラフが日本の勢いを象徴しているように見えますね。皆さんにはどのように見えますか？

### ボーナスの使い道は？

ボーナスを支給された人はどのような使い方をしているのでしょうか？

ポイントサービス運営会社（株式会社ロイヤリティマーケティング）が昨年6月に行った調査によると、1位は貯金・預金の35.6%でした。貯金・預金が1位なのは7年連続だそうです。

支給額の75%以上を貯金したいと考えている人が33.5%、50%から75%を回したいと考えている人が26.5%と6割の人が支給額の半分以上の額を貯金したいと考えています。

同じ調査会社が2020年10月に行った冬のボーナスについての調査でも使い道の1位は38%で貯金・預金でした。

こちらの調査では貯金・預金の用途についても聞いています。

	2020年10月	2019年10月
老後の生活への備え	58.1%	59.6%
将来の消費への備え	53.1%	51.9%
収入の変化への備え	40.0%	27.1%
病気や災害への備え	26.0%	22.9%
その他	3.0%	2.3%

コロナの影響で収入の変化への備えを意識する人が大幅に増えています。また、やはり老後の生活に不安を感じている人が多いことがわかりますね。

ボーナスや毎月の給料から一定額を将来の備えに回すのはとても有効です。どのような商品を利用すればよいか気になる方はご遠慮なくご連絡ください。